

2026年6月12日

仙台市長 郡 和子 様

日本共産党仙台市議団 団長 花木 則彰

ふるくぼ 和子 高見 のり子

すげの 直子 吉田 ごう

音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の計画を一旦停止し  
市民の声を聞き、基本構想・基本設計の見直しを求める 申し入れ

市が進めてきた「音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設」整備計画は、基本設計に対して、音響や建築の専門家や、さまざまな市民・団体から疑問の声が寄せられています。市長は「丁寧に説明しご理解を得たい」と繰り返してきましたが、5月の2回の市民説明会、6月6日のシンポジウムを経ても、市民からの疑問の声は大きくなるばかりです。

日本共産党仙台市議団は、これまでも計画を一旦中止するよう求めてきました。あらためて現在の基本設計のまま、実施設計を発注することは絶対にすべきではないと考えます。その理由は、次の点です。

- ・整備費用の見込み額がどんどん膨らみ、歯止めとなる上限額設定も行われない事実上の「青天井」で、今後もさらなる増大が見込まれること。
- ・その費用の7割以上が、市債によって賄われ、将来の財政負担が重くなること。
- ・外観・デザインによって建設費・維持費がどのくらい割増しになっているのか説明されていないこと。
- ・新県民会館が先に完成し、「2000席規模」にこだわる必要がなくなったこと。
- ・基本設計のままでは、仙台市がめざすとしている「生の音源に対する音響を最重視し、…国内外から高い評価を獲得できる音楽ホール」には音響設計上なり得ないこと。
- ・青葉山公園という立地についても再考が求められること。

市民がこの計画に対して単なる賛成・反対だけでなく、よりよい計画となるように提案やアイデアをたくさん出していることは、「市民協働」をかかげる仙台市にとって誇るべきことです。きちんと受け止めて、基本設計や基本構想にも立ち戻って再検討すべきです。

よって、3点を申し入れます。

一、現在まで市民から寄せられている意見を受け止め、一から基本構想・基本設計を見直すこと

一、実施設計（16.7億円）、ECI方式技術協力費（1.7億円）の発注・執行を行わないこと

一、市の財政の身の丈に合った事業となるよう、上限額などを設けること

以上